

日本鋼管福山病院 河部 真就

日本鋼管福山病院整形外科1年目の河部真就と申します。私は広島県福山市出身で高校は広島大学附属福山高校を卒業しました。大学は鳥取大学に行き、初期研修から福山に帰ってきて今専攻医1年目として同病院で勤務させていただいています。初期研修医の時と違い患者から頼られる目や自分の言葉の責任の重さを痛感しております。間違ったことは言わまいと思い、日々知識を積み重ねています。しかし臨床中や手術においても悩むことは多々あり、改めて決断することの難しさを実感しております。

私は学生時から整形外科医志望であり、初期研修医では整形外科のローテーションを多く回らせていただきましたが、今後の自分に必要な他科の知識などもその都度、科の違う先生方から教えていただきすごく自分のためになっていると感じています。実際に1度見ないと想像すらできない病態もあり、まずは多くのことを体験することを初期研修医の時は心がけておりました。実際に体験したものは聞くだけよりもはるかに理解が深まりました。また指導医の先生方も自分に考える時間を与えてくれたり、現時点での自分の考えを述べる機会を与えてくれたりしてくださったことはさらなる理解につながったと思います。今専攻医として多くのことを実践にうつしていますがまだまだわからないことだらけで多くの先生方に助けてもらっています。

話は変わりますがGWに大阪・関西万博に行ってきました。万博に行くのは初めてで、世界の文化に触れ、今まで知らなかった日本の新たな魅力を知り、そして未来の社会の創造をふ

くりますなど大いに刺激のあるものでした。私が一番感銘を受けたのは未来の社会、「Society 5.0」と言われる狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く新たな社会を目指した各企業の出展でした。人間の創意工夫を感じ、すべての人がくらしやすい世界を作ることや今まで見たことのないものを作ることに興味を引かれ、今後は医療界やエンタメ界にも応用されるのではないかと感じました。

医療的な面では映像化された医師がオンラインで患者を診察し、薬をドローンで届けることやiPS細胞から作られたiPS心臓など新たな医療の在り方や進歩などに胸を膨らませることができました。

そこで山中伸弥先生がメッセージとして完璧には覚えていないですけど以下のようなことをおっしゃっていました。「私自身過去の大阪万博に行ったときに科学にすごく感銘を受けました。そして科学に魅了され今に至ります。次に世界を動かすのはもしかしたら今この私のメッセージを聞いているあなたかもしれません」と。世界を動かすのは自分ではないですけど、今後さまざまな企業や研究者のみなさんが切磋琢磨してよりよい社会を目指すことを期待しております。私は自分の立場から地域や社会に貢献できたらよいかなと思います。私自身は科学には大変劣っていますが1人の人として多くの人を魅了できるような立派な医師になりたいと思います。

拙い文章でしたが最後までお読みいただきありがとうございました。

事故防止、医師と患者の信頼関係

「日本医師会特約保険」・「法人向け団体医師賠償責任保険」・「団体医療施設賠償責任保険」に加入されていますか？医療におけるクレーム・紛争または訴訟にまきこまれた時、あなたとあなたの医療機関は大丈夫ですか？

お問い合わせ先 広島県医師会事務局 保険医事課
TEL：082-568-1511
E-mail：ijihosei@hiroshima.med.or.jp